

第2回 福山大学教育改革シンポジウム

大学教育センター教育開発部門

平成27年9月18日（金）、第2回福山大学教育改革シンポジウムを1号館大講義室（01101教室）で実施しました。本年度の教育改革シンポジウムは「初年次教育」をテーマに、第1部をFD・SD講演会、第2部を本学における初年次教育の取り組み紹介として2部形式で開催しました。

第1部のFD・SD講演会は、同志社大学 社会学部 教授 山田 礼子先生に「初年次教育の動向：成果につながる初年次教育とは？」という演題で、初年次教育を巡る政策と社会状況、初年次教育に関する調査からわかること、初年次教育の動向、アクティブ・ラーニングの概念と初年次教育の最新動向、事例「同志社大学 教育文化学科」、初年次教育が直面する課題とは、などについてご講演をいただきました。

この講演の中で、2014年の高大接続に関する中教審答申においても、初年次教育の充実が政策としても位置付けられて初年時教育が急速に広がりつつある反面、初年次教育学会における調査では、会員の9割が全学的な取り組みの遅れを認識しているなど、現状での問題点が浮き彫りにされました。また、初年時教育の取り組み意識については、医・歯・薬・保健系と農学部系が高く、法・政治学部系および理学部系が低い傾向にあることが紹介されました。さらに、学生の問題としての事象（基礎学力の低下、社会的なルールが守れない、人間関係が構築できない、グループワークが苦手など）や大学が抱える初年次教育の課題（初年時教育実施の体制整備、初年時教育を担当する教職員の確保・育成、初年時教育方法・教材の開発など）が紹介され、初年時教育を充実していくための問題点や課題も指摘されました。

上記の通り、山田先生のご講演では、「初年次教育」の重要性や必要性を十分に踏まえつつ、現実的にどのように初年次教育を各教育機関で実施していくべきかについて詳細に、かつ分かりやすくお話しいただきました。





第2部では、「本学における初年次教育の取り組み」として、3つの学科における初年時教育の取り組みが紹介されました。

最初に、橋本 優花里 教授が「初年次教育としてのピア・サポート訓練のこれまでとこれから」という演題で「振り返りカード」を用いた人間文化学部心理学科の取り組みについて、その実績、中退率との相関性、および今後の課題について講演されました。



続いて、田淵 紀彦 准教授が「初年次教育「薬学入門」への取り組み」という演題で、薬学部が行っている「気付きの学修」の概要を病院や保険調剤薬局での早期体験学習の実績や効果を中心に講演されました。



最後に、伍賀 正典 准教授が「大学初年次教育におけるレスキューロボットコンテスト・シーズへの取り組み」という演題で工学部スマートシステム学科が行っているミニロボットコンテストへ参加を通じた組みとその効果について講演されました。



(記：田村 豊)